

な か ま

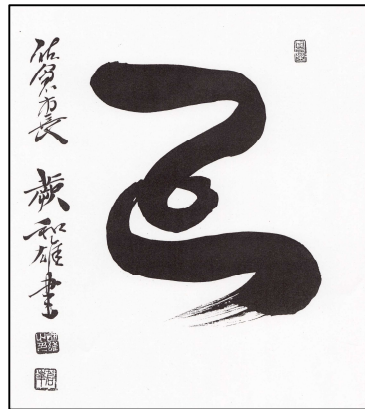
発行
佐倉市立中央公民館
編集
なかま編集委員会
〒285-0025
佐倉市鎚木町 198-3
電話 (043) 485-1801

世代間いきいき交流 ----- 根岸 英昭 江戸初期の識字教育 ----- 近藤 守
もうすぐ55年です ----- 菅原 敏一 ホタルが結びつけた仲間との出会い 山中 健雄

新春に寄せて

佐倉市長

わらび かず お
蔵 和 雄



新年あけましておめでとう
ございます。
佐倉市民の皆さまにおかれ
ましては、お健やかに新しい
年をお迎えのことと、謹んで
お喜び申し上げます。
また、日頃より佐倉市政の
推進に対しまして、多大なる
ご理解とご協力をいただきま
す。誠にありがとうございます。

佐倉市の人口は約17万6千
人ですが、その内4万1千人
余が65歳以上の高齢者となり
ました。すなわち高齢化率が
23%を超え、超高齢社会の時
代を迎えているということに
なります。
これだけ人口の構成が変わ
りますと、高齢者の単身世帯
や要介護者も増え、一人ひと
りが健康で豊かな生活を送る
ことに対する課題が生まれて
まいります。
こうした時代の要求に込め
るため、佐倉市では「第5期
佐倉市高齢者福祉介護計画」
を策定し、平成24年度から平
成26年度にかけて生活環境の
整備や医療・福祉の充実を進
めてまいります。
また、今後も人口構成の変
化は、高齢化へと向かうこと
が予測されております。すべ
ての市民の皆さまが健康で生
きがいを持ち、生き生きとし
た人生を楽しむことができる

よう、市民と行政とが共に手
を携えて、自助・共助・公助
のバランスが取れたまちにし
ていくことが、佐倉市の未来
にとって重要であると考えて
おりますので、今後ともご支
援、ご協力を賜りますよう、
心からお願ひ申し上げます。
さて平成25年の干支は、12
支の中で6番目の巳年でござ
います。ここに「巳」という
文字を書かせていただきました。
「巳」は動物にあてはめると
「蛇」になります。蛇は脱
皮を繰り返して成長すること
から、古来さまざまな文化の
中で、豊穰と生命力の象徴と
されてきました。
本年も皆様が、四季折々の
豊かな自然と、城下町として
の長い歴史を持つ佐倉市で、
蛇のように長く、力強い活動
を続けられることを祈念いた
しまして、新春の挨拶といた
します。

世代間いきいき交流

―つながる笑顔の輪―

「私たちのまちづくり」活動で、高齢者の福祉に取り組むグループと子どもを育てようとするグループが結びつき、活動テーマを「世代間いきいき交流」、グループ名を「つながる笑顔の輪」とし、18名で活動をスタートした。「ギター演奏と歌」「民話・読み語り」「共に遊ぶ」の三グループ構成で、全体で月に2〜3回の活動をしている。活動施設は介護施設、町内会館、児童保育所、小学校等である。

私たちの活動が歓迎され、そして喜ばれる時は、正しく生きがいを感じる瞬間でもある。二時間公演ができる「つながる笑顔の輪」の多士済々のメンバーは、私たちの誇りである。その中から精鋭6名で、平成24年8月1日から3日間の日程で陸前高田市を慰問した。場所は学童クラブ（米崎町、学童約22名参加）、長部サロ（気仙町、高齢者・奥州市ボランティア高校生約72名参加）、高田サロン（高田町、高齢者約35名参加）である。懐メロ・唱歌、民話・紙芝居、折り紙・バルンアート等を披露し、一緒に歌い、遊んだ。学童や高齢者が悲しみを乗り越えて積極的に参加し、みんな明るく楽しそうだったのが印象的であった。活動を始めてから約2年半になるが、慰問の経験を今後のボランティア活動に生かしていきたいと思う。（ユーカーが丘 根岸 英昭）

江戸初期の識字教育

日本の読み書き能力は、江戸時代から世界一といわれていたようです。その根拠になる統計的な数値なんかありませんが、当時のイギリスやフランスの社会事情と日本の社会事情、国民の素直な気質、勤勉さ等から判断して諸外国の著名人が述べたことをもとにしたようです。

江戸時代には「女子に学問はいらない。文盲でよい」という言葉がありました。これは女性には漢字は必要ない、仮名だけ読めればよいという意味とのこと。土農工商どこでも初歩の読み書きの教育は、母親によって行われていたようです。女性は仮名文字を通じて読み書きが上達していったのに対して、男の子は七歳になると母親の手を離れて父親のもとで、商人は算盤、農民は年貢計算をといったように、それぞれの職業に必要な

知識の習得に専念していったのです。

しかし武士の識字教育ではお粗末な状態でした。江戸初期に大久保彦左衛門が書いた『三河物語』から面白そうなたて字を紹介しますと、

来の枝（木の枝）、民百将（民百姓）、道前（同然）、親立（親達）、押カラズ（惜カラズ）、勢低クシテ（背低クシテ）、

こんな具合に当て字まじりの原文となっています。どうやら、当時の報告は書面によるものではなく、言葉による報告が主流だったのかもしれない。

寺子屋で読み書き・算盤を教えるようになったのは、江戸後期です。今の社会でも、こういった当て字をあらわらちらで見かけることがあります。私を含めて以後注意したいものです。

（八幡台 近藤 守）

もうすぐ55年です

昭和33年、私が小学5年生の時に空前の切手収集ブームが始まりました。ご多分にもれず友人達と一緒に買って収集しました。

初めて郵便局の窓口で買った切手は関門トンネル開通記念で、次に入手したのは前年発行していた製鉄百年記念切手。デパートの切手売場で購入。

この頃から、郵政省はブームに便乗して年間7〜8種類の記念切手を十数種類発行。30種類ぐらいいなるのは早かったと記憶しています。第三回アジア大会、皇太子御成婚、東京オリンピック等戦後復興に合わせて数多くの記念切手が発行されました。このブームは十数年程度続いたと思います、私は今でも収集をしております。

二十〜四十代は仕事、結婚、子育てで生活するのが必死で必要切手以外は収集しない時

もありました。代わりに記念切手ではなく、使用済切手に興味を持ちました。この切手は〇〇市より何かの目的があつて出した手紙やハガキに使用されたもので、消印がハッキリと押されているので、未使用切手にはない有機的な味があり大変楽しいものです。

そして、四年前に製鉄百五十年記念という切手が発行され、私が切手に出合つて五十年以上になったのかと感慨深いものがありました。

紙きれの切手ですが、世界中の人と人の心をつなぐ未来を明るくする印紙です。7〜8年前から印刷技術やシリーズの内容が優秀になりました。星座、自然との共生、山岳、浮世絵等のシリーズは良い出来映えで発行されています。民営化で益々おもしろい切手が出され将来が楽しみです。第2次切手ブームを期待します。

(井野 菅原 敏一)

ホタルが結びつけた

仲間との出会い

「ホタルに想いを馳せし十九人」この春、身近な谷津田にホタルを呼び戻そうと市民カレッジ二十期生十九人が「まちづくり」のテーマとすることを決めた。

昔は自然に満ちた志津界限もこのところ、ホタルなど滅多に見ることができなくなつた。ある日、この想いをカレッジ仲間につぶやいたところ皆も同じ想いで、結果として、何とか以前のようにホタルを呼び戻せないか挑戦してみようということになった。

それから熊田氏をリーダーに、十九人の賛同者を得た。その後畔田沢中流域の自然環境を保全しようとする「仲間会の会」の存在を知った。以降、ホタル生態園見学を皮切りにこの畔田沢の整備、ホタル個体数観察など、ほぼ二週に一度のペースで「仲間会の会」会長神さんの指導で活動

を続けた。この真夏の作業は私たちに思いもよらない事実を教えてくれた。神さんを頭とする「仲間会の会」の地道で長い活動が自然を結構残してくれていること、ホタルも意外に多く生息していることなどである。そして適切な手を加えることによつて本来そこに棲める動植物が返ってくるのである。現にわずかではあるが、今回、我々が新しく任された耕作放棄地に水を呼び込んだところ、ホタルシリーズの終わりには意外な数のホタルが戻ってきた。

私はこの活動を通して、つくづく次のような境地に至っていることに気が付いた。何事も一人で考えているだけでなく、発言し合えば、世界は広がるものだということを。

(中志津 山中 健雄)



1月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更、句読点等の修正や語句の訂正をさせていただきます。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043-485-1801

〒285-0025 佐倉市鍋木町198-3

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuou/index.htm>

さくら道

生産者の顔が見える農産物を販売する「道の駅」が賑わっています。米、生鮮野菜に加え米農家の提案する「米粉パン」や「米粉ケーキ」「米粉麺」など小麦粉製品と違う食感を楽しめる食品もあります。日本の農業は危機といわれて久しい。農業従事者の平均年齢65歳を超えました。消費者の米離れで、年間一人当り消費量は40年前の半分に減少しました。耕作放棄地は増え

続け、全国で埼玉県の面積ほどになってしまいました。米を増産すれば価格が下がります。農業の衰退を招くとの守りの農業説と、味や生産効率を競争して米離れを防ぎ、安心安全な米を自らが販売する攻めの農業説とがあります。今年、美味しいお米と米を利用した色々な食品を楽しみながら、農業の活性化と食料自給率改善に消費者として少しでも貢献したいと思っています。

(坂口 登)

あとがき

毎月4編、一年間で48編が掲載される『なかま』。昨年分を読み返し私なりに5つのテーマに分類してみたところ次のような割合でした。

- ① 好きなこと（趣味、旅行、ボランティアなど） 33%
- ② 身の回りのこと（思い出、家庭、友人など） 31%
- ③ 歴史的なこと（史実、歴史の1コマなど） 19%
- ④ 意見表明や主張など 13%
- ⑤ カレッジ関係 4%

内容は十人十色、48編48色で実に多彩です。自分の好きなことや身の回りのことは書きやすい、書いてみたい、残しておきたいなどの想いが強いのでしよう。専門的に深く考察されたこと、ぜひ述べたいという主張も読者の興味を惹きます。テーマを温めておられる読者の皆さま、今年も投稿をよろしくお願い致します。

(森山 義信)